

2021.07.03・福岡県

- ①糸島市・可也山(かやさん)のキヌガサタケ、ジャノヒゲ、ヒルガオ (石切り場跡まで)  
②福岡市西区・柑子岳(こうしだけ)のキヌガサタケ、アキノタムラソウ (村上登山口周辺)



キヌガサタケ(衣笠茸)  
スッポンタケ科



ジャノヒゲ(蛇の髭)  
ユリ科



ヒルガオ(昼顔)  
ヒルガオ科



アキノタムラソウ  
(秋の田村草)  
シソ科



2021/07/03 9:29 師吉(もろよし)公民館



2021/07/03 9:29



師吉(もろよし)公民館

2021/07/03 9:31



可也山(かやさん)365m

2021/07/03 9:32

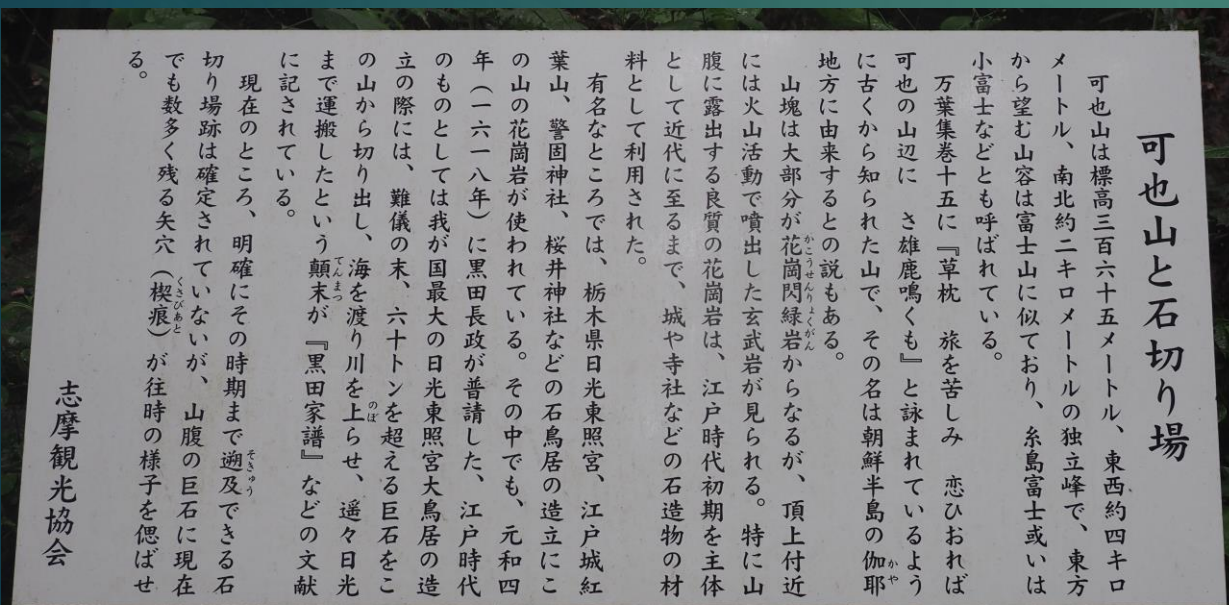




ジャルゲ(蛇の髭)  
ユリ科



2021/07/03 10:18



### 可也山と石切り場

可也山は標高三百六十五メートル、東西約四キロメートル、南北約二キロメートルの独立峰で、東方から望む山容は富士山に似ており、糸島富士或いは小富士などとも呼ばれている。

万葉集巻十五に『草枕 旅を苦しみ 恋ひおれば可也の山辺に さ雄鹿鳴くも』と詠まれているように古くから知られた山で、その名は朝鮮半島の伽耶地方に由来するとの説もある。

山塊は大部分が花崗閃緑岩からなるが、頂上付近には火山活動で噴出した玄武岩が見られる。特に山腹に露出する良質の花崗岩は、江戸時代初期を主体として近代に至るまで、城や寺社などの石造物の材料として利用された。

有名などころでは、栃木県日光東照宮、江戸城紅葉山、警固神社、桜井神社などの石鳥居の造立にこの山の花崗岩が使われている。その中でも、元和四年(一六一八年)に黒田長政が普請した、江戸時代のものとしては我が国最大の日光東照宮大鳥居の造立の際には、難儀の末、六十トンを超える巨石をこの山から切り出し、海を渡り川を上らせ、遙々日光まで運搬したという顛末が『黒田家譜』などの文献に記されている。

現在のところ、明確にその時期まで遡及できる石切り場跡は確定されていないが、山腹の巨石に現在でも数多く残る矢穴(楔痕)が往時の様子を偲ばせる。

志摩観光協会

2021/07/03 10:19



石切場跡

2021/07/03 10:20

ここで引き返す

1時間30分の行動時間



キノガサタケ(衣笠茸)  
スッポンタケ科



キノガサタケ(衣笠茸)  
スッポンタケ科



ヒルガオ(昼顔)  
ヒルガオ科

柑子岳(こうしだけ)村上登山口周辺



ヒメホウギズイセン(姫檜扇水仙) アヤメ科



タマゴ→

キノガサタケ(衣笠茸)  
スッポンタケ科



キノガサタケ(衣笠茸)  
スッポンタケ科



アキノタムラソウ  
(秋の田村草)  
シソ科



タマゴ→

キノガサタケ(衣笠茸)  
スポンタケ科



2021/07/03 11:39

ここまでで引き返す



キノガサタケ(衣笠茸)  
スッポンタケ科



キノガサタケ(衣笠茸) スッポンタケ科



キノガサタケ(衣笠茸)  
スッポンタケ科





キノガサタケ(衣笠茸)  
スッポンタケ科



2021/07/03 11:48  
25分の行動時間

キノガサタケ  
(衣笠茸)の  
タマゴ